

## 令和 4 年度事業報告

令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症に対する規制も緩和され、活発な活動が行われました。前年度は殆ど実施出来なかった裾野拡大事業や各種セミナー、講習会、シンポジウム等も概ね計画通り開催されました。少子高齢化が進む中で近い将来にパイロット不足が予測され、且つコロナ禍の影響で航空界の人気の低落している中、次世代を担う児童や青少年を対象とした裾野拡大事業が重要と位置付けて推進しました。具体的には「FLY with us ~空の仕事ワークショップ~」「Be a PILOT (パイロットの魅力を発信するプロジェクト)」「スカイスクエア」を開催しました。新規事業として小学生対象のこども航空教室/FTD 体験搭乗を夏休み等の長期休暇に合わせて実施し、好評を博しました。また都内小学校の夏期課外授業イベントにも参加し、同様の航空教室/FTD 体験搭乗を行いました。更に教育機関、航空少年団等の青少年を対象に無料の FTD 体験搭乗制度を開始しました。またフォトコンテストも裾野拡大事業の一環として実施し、入選者等には副賞としての FTD 体験搭乗を実施しました。

各種シンポジウム、講習会、セミナー等では、感染症下で IT 化の利点が新たな広がりを見せたハイブリットやリモート方式を活用し、「ATS シンポジウム」「航空気象シンポジウム」「RNAV 講演会」「航空安全講習会」「小型航空機セーフティセミナー」「TEM/CRM セミナー」「SRM セミナー」「出張セミナー」「航空医学適性セミナー」を開催しました。また、TEM/CRM 講師に対しては、知識の再確認と新しい知識の付与を目的としてリフレッシュ研修を実施しました。地区支部や各委員会も、航空関連施設の見学会や航空安全セミナーを開催するなど活発な活動を行いました。協会運営に関わる各種会議体も、ハイブリットやリモート形式を活用し順調に実施されました。

FTD 事業については、機材の改良を実施しながら、体験搭乗、ワンポイントレッスンを実施するとともに、運搬可能なポータブル FTD も活用し、体験搭乗や空港祭り等の催事では参加者に操縦感覚を楽しんで貰いました。

関係省庁等が主催する委員会、協議会への委員派遣、並びに各種機関からの要請による講師派遣については、パイロット視点の意見や見識を伝えるために積極的に対応しました。そして会員の方の利便性向上の為に、アプリを使った電子書籍化の計画を進めるとともに、各種の参加費、利用料、購買費用等のキャッシュレス化を推進しました。また、将来に渡って JAPA が健全で安定した財務体質のもとで航空界へ貢献出来るように、新規会員獲得の方策や会員制度の見直し等の必要な対策を検討しました。

コロナ禍による規制が緩和される中、令和 4 年度全般に渡っては、公益社団法人としての役割を果たすべく、出来る限りの工夫を取り入れながら以下の事業を実施しました。

## 『事業別内容』

### 1.航空の安全文化の普及と啓発（定款 第4条 1項）

#### (1) 「Fly with us～空の仕事ワークショップ～」 （公1）

国土交通省航空局の後援を受け JAPA が主催し、「空の日」・「空の旬間」実行委員会の協賛も受けて、航空に係る仕事に興味を持って頂くことを目的に、航空会社や航空局の協力を得て航空機操縦士、客室乗務員、旅客業務担当者、航空管制官を講演者に迎え、講演と質疑応答（パネルディスカッション）を全国9箇所（5月福岡、6月新千歳、10月羽田、11月中部空港、12月伊丹、2月那覇/仙台、3月新潟）で実施し、延べ189名の参加がありました。

#### (2) Be a pilot （公1）

パイロットの魅力を発信するプロジェクトで、前年度に実施した「Talk with us～パイロットとのオンライン座談会」を基に、「Be a pilot オンライン座談会"Talk with us"」を実施しました。参加者110名から約200件の質問を受け、回答（Q&A）を作成し参加者全員へ配信しました。その他、「Be a pilot 動画OB編、現役編」を作成しYou Tubeに掲載とJAPAホームページの「Be a pilot」Webサイトに組み込み、更にTwitterで公開しました。また一般大学の要請を受け「パイロット座談会」を開催しました。

#### (3) スカイスクエア （公1）

「空の日」のイベントとして福島、静岡、松山、那覇の各空港で開催され、多くの一般の方が参加しました。また松本空港のスカイフェスティバルにも参加し、それぞれ機体展示、ヘリコプターFTDとポータブルFTDの体験搭乗等を実施しました。

#### (4) 航空安全セミナー （公2）

外部講師を招き運航関係者に対して飛行方式、航空気象、航空管制などの運航に必要な内容を解説し、知識の理解や再確認を目的とする「航空安全セミナー」を九州支部、西日本支部で実施しました。

#### (5) FTD とポータブルFTD を利用した裾野拡大 （公1）

小学生を対象に、こども航空教室/FTD 体験搭乗を夏休みに3回、冬休みに2回、春休みに2回実施しました。また都内小学校への航空教室/FTD 体験搭乗や航空少年団への体験搭乗を実施し、FTD 体験搭乗は年間70回の利用がありました。

#### (6) 関係省庁主催委員会委員派遣（公1）

関係省庁が主催する審査会、委員会、協議会、懇談会等へ理事、委員を派遣し、パイロット視点からの意見及び情報（知識）を提供しました。外部団体役員派遣は9団体、関係省庁主催委員会委員派遣は、31委員会に及びました。

## 主な派遣先

### (航空局)

- ・航空身体検査証明審査会
- ・交通政策審議会
- ・小型航空機等に係る安全推進委員会

### (航空局管制部)

- ・CARATS
- ・航空保安業務運用連絡会議
- ・航空管制等英語能力証明検討委員会

### (航空輸送技術研究センター)

- ・VOICE 分析委員会

### (航空局航空ネットワーク部)

- ・空港安全技術懇談会

### (航空局安全部)

- ・航空安全情報分析委員会
- ・交通管制安全情報分析委員会
- ・航空英語能力証明審査会
- ・無人航空機操縦ライセンス試験管理委員会

### (航空局管制技術課)

- ・航空障害標識調整会議

### (日本航空協会)

- ・航空スポーツ連絡会
- ・「空の日」、「空の旬間」実行委員会

### (内閣府)

- ・小型無人機に係る環境整備に向けた官民協議会

### (国土交通省・経済産業省)

- ・航空機、無人航空機相互間の安全確保と調和に向けた検討会
- ・無人航空機の目視外及び第三者上空等での飛行に関する検討会

### (JAXA)

- ・運航管理システム開発推進委員会
- ・NEDO 遠隔識別
- ・有人機空域共有有識者委員会

## (7) 外部講師派遣 (公 2)

航空業務に関わる組織の研修に講師を派遣し、パイロットの見地から航空機の基礎知識や運航、緊急事態発生時の措置等の情報（知識）の提供を行いました。

(航空機安全運航支援センター)

- ・航空運用管理研修  
「航空機の運航の基礎」「小型航空機の運航」

(航空交通管制協会)

- ・成田国際空港株式会社航空研修  
「航空機概論」

(航空保安大学校岩沼研修センター)

- ・総合特別研修  
「航空機の運航」

(航空局航空ネットワーク部)

- ・航空保安防災職員特別研修  
「航空機の緊急事態発生の措置に係る事例検証」

(8) 航空機操縦士養成連絡協議会 (公 1)

裾野拡大ワーキンググループと技量向上ワーキンググループの事務局を担当し、「女性航空教室 Yes I Can!」に参加しました。

(9) 「第 2 回フォトコンテスト」 (公 1)

航空の裾野拡大事業の一環として「私の好きな航空機」をテーマに実施しました。173 名からプリントとデジタルスナップを合わせて 339 枚の応募があり、入賞者等へ FTD 体験搭乗も行いました。

## 2.安全対策（制度と運用）（定款第 4 条 2 項）

(1) 航空医学適性セミナー (公 1)

航空医学研究センターと共催し、「ピアサポート、HIMS プログラム、医薬品の見直し」等をテーマに行われ、オンライン参加を含め 88 名が受講しました。

(2) 学科試験問題検討会 (公 1)

「学科試験スタディガイド」の作成を目的に、航空従事者学科試験の過去の問題を編集、精査し、航空局試験官の出席を得て年 2 回の委員会を開催し、編集活動を実施しました。

(3) 航空安全講習会 (公 2)

航空局通達国空乗 2077 号に沿った内容を含む「特定操縦技能審査制度」に対応し、自家用操縦士の方へ安全知識の習得と安全意識の向上を目的に、JAPA 主催で埼玉、熊本、東京、大阪の 4 箇所延べ 5 回開催されました。今年度は特定操縦技能審査関連事項では「航空機事事故事例と安全対策」「人間の能力及び限界に関する事項」、その他に「IFR 運航による高度逸脱について」「基本を見直そう」「小型航空機に関する安全情報の共有について」をテーマに実施され、延べ 157 名が受講しました。

### 3.情報（知識）の伝達と提供（定款第4条3項）

#### 1 小型航空機セーフティセミナー（公2）

航空局の後援を受け小型航空機操縦士を対象に、必要かつ有益な航空知識と最新の航空情報を伝え、小型航空機の事故防止を目的に開催しました。航空局や気象庁、運輸安全委員会、ATEC並びに大学、航空会社などから講師を招き、多岐に渡る講演が実施されました。2日間に渡り開催され、リモート参加を含め延べ236名の参加がありました。

#### 2 ATSシンポジウム（公2）

パイロットと管制官の共通認識に基づき、安全で効率の良い運航と航空管制の実現を目的に、航空局の後援を得て航空交通管制協会と共催しました。航空局交通管制部による「航空管制の現状」と「管制方式基準の改正」についての講演後に、「計器進入方式における高度の逸脱防止と管制指示」をテーマにパネルディスカッションを実施し質疑応答を行いました。リモート形式で開催し216名の参加がありました。

#### 3 航空気象シンポジウム（公2）

航空交通管制協会の共催のもとで、航空局、気象庁、気象影響防御技術コンソーシアムの後援を得て、リモート参加も含め138名の参加がありました。JAXA、エアライン、大学による「羽田空港の風の予測と発表する情報について」「SOLWINによる低高度乱気流の観測・通報について」「静岡空港の低高度ウィンドシア発生メカニズムについて」の各講演の後に「低高度の風情報と乱気流について」をテーマに公開座談会をパイロット、運航管理者、管制官、気象予報官をパネリストに迎え実施しました。

#### 4 「TEM/CRMセミナー」「SRMセミナー」「出張セミナー」（公2）

航空局の後援を得て、以下のセミナーを実施しました。

- ・「TEM/CRMセミナー」

TEM/CRMの基礎コースでは、事業用、自家用操縦士を主対象として6月と12月に実施しました。

- ・「SRMセミナー」

シングルパイロット運航の操縦士を対象として、9月と2月に2回実施しました。

- ・「出張セミナー」

企業や団体が対象のTEM/CRMの基礎コースで、小型機運航会社へ2回実施しました。

#### 5 参考文献及び教材提供（公2）

- ・「AIM-J」年2回発行

運航に必要な基本情報、一般的な飛行の手順、ATC、航空気象、航空の安全に影響を与える諸要素の解説、日常の運航に参考となる諸資料及び航空管制の用語の解説を記載しています。

- ・「学科試験スタディガイド」年1回発行

航空従事者学科試験の受験者を対象として自家用、事業用、定期運送用、准定期運送用操縦士及び計器飛行証明、操縦教育証明の内容を網羅しています。

- ・「TAKE OFF」

初めて飛行機を勉強する訓練生を対象に、VFRの小型固定翼機を念頭に置いて基礎を重点に編纂し、操縦訓練のバイブルとして活用する目的で編集作業を実施しました。

- ・「ヘリコプター操縦教本」

ヘリコプター操縦教育の標準的な教本として発行しています。

- ・「区分航空図」

VFR 運航者へ安全な航路情報を提供する改訂版を 8 部発行しました。

- ・「パイロット手帳」年 1 回発行

カレンダーと日常運航に参考となる諸資料が掲載されています。

## 6 航空情報提供（公 1）

「ホームページ」「パイロット」誌を活用し各種の情報(知識)を提供しました。

また「E-journal」で個別の技術情報を都度、発信しました。

更に「メールマガジン」等を利用し、タイムリーな情報発信を図りました。

## 7 航空身体検査 Q&A（公 2）

会員と一般の方へホームページ上で、航空身体検査証明に関する情報や内容、航空身体検査を受検するにあたっての疑問や質問を航空医学委員会、航空医学研究センター、並びに航空局等に確認を行い回答しました。

## 4.技術習熟の支援（定款第 4 条 4 項）

### (1) RNAV 講演会（公 2）

小型航空機運航者を対象として、RNAV 運航に関する基礎知識の付与と GPS 航法の通達内容や GPS、FMS、NAV データベース等のシステムの知識習得を目的として実施しました。3 回の講演会を実施し、リモート方式を含め 131 名の参加がありました。

### (2) FTD を使用した技術習熟支援（公 2）

オペレーターが担当し、単発・双発プロペラ機の FTD を利用して、「ワンポイントレッスン」を実施し、延べ 117 回の利用がありました。

## 5. 情報収集と調査研究（定款第 4 条 5 項）

### (1) 航空業界における情報収集と諸研究のフィードバック（公 2）

委員会・支部が、関係省庁・団体・航空会社等と協力してドローン試験問題勉強会やドローンに関する意見交換を実施しました。また大型機と小型機の TCAS RA 発生リスク軽減に向けた意見交換も実施し、情報収集と調査、研究のフィードバックを行い安全の向上に寄与しました。

## 6.その他、本協会の目的を達成する為に必要な事業（定款第 4 条 6 項）

### 1 福利厚生（他）

JAPA 団体保険の「団体長期障害所得補償保険制度（LOL）」と「団体総合補償制度」の運用を行いました。また、百貨店のゴールドカードサービスとの提携やレンタカーの割引制度を導入しました。また、各種の参加費、利用料、購買等のキャッシュレス化を実施し、入退会手続きを Web でも利用出来るようにしました。

## 2 表彰関連事業（他）

航空の発展に貢献された方々への表彰関連事業を実施しました。（パイロットのみ掲載）

### ・春の黄綬褒章

小福川 祐二（日本航空株式会社）

佐藤 俊一（全日本空輸株式会社）

林 譲治（株式会社ジェイエア）

### ・秋の黄綬褒章

久場 広一郎（株式会社エアジャパン）

小林 明（ANA ウイングス株式会社）

田中 繁和（全日本空輸株式会社）

### ・国土交通大臣表彰

大畑 博史（日本航空株式会社）

菅 元生、西野 亨、尾畑 陽介、市川 聡、高柳 英治、中本 勝弘

（以上、全日本空輸株式会社）

松本 具視（日本トランスオーシャン株式会社）

### ・東京航空局長表彰

該当者無し

### ・大阪航空局長表彰

該当者無し

### ・日本航空協会

該当者無し

### ・日本航空機操縦士協会

会長表彰：

石井 清（JAPA 東日本支部）

奥本 進介（新日本ヘリコプター）

後藤 達也（全日本空輸株式会社）

山口 栄伸（全日本空輸株式会社）

大矢 英嗣（全日本空輸株式会社）

藤田 茂人（JAPA 中部支部）

会長奨励賞：

次世代を担う航空大学校や各大学の操縦学科の学生への表彰関連事業を実施しました。

辻次 誠宏（航空大学校 第 66 回生 I 期）

高橋 優斗（航空大学校 第 66 回生 II 期）

山崎 大輔（崇城大学）

吉川 怜佑（法政大学）

小野寺 玲香（帝京大学）

三浦 陸葵（桜美林大学）

芝先 航平（東海大学）

『会員情報』 会員数（令和 4 年度末現在）

（人）

会員種別		会員数	
正会員	定期	3,084	4,512
	事業用	993	
	個人	435	
終身会員		1,304	1,304
賛助会員	個人	137	198
	法人	61	
準会員		625	625
合計			6,639

【参考】

公益法人である本協会の事業は、公益目的事業とその他の事業に分類され、更に公益目的事業は、事業の性格により 2 つに分類され、内閣府より認定を受けています。

公 1: (公益目的事業) 航空の安全文化の普及と諸般の調査研究を対象としている事業

公 2: (公益目的事業) 運航の安全に資する知識の向上と情報提供及び調査研究を対象としている事業

他 : (その他の事業) 本協会の目的を達成するために必要な事業

附属明細書

令和 4 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。